口下手ボーダー隊員の日記

金匙

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

口下手な少年と、少年が書く日記と、そんな少年に振り回される周囲の関係者たちの話

目次

日記① 1
日記② 10
日記③ 20
日記④ 29
日記⑤ 38
日記⑥ 46
日記⑦ 55
日記⑧ 63
日記⑨ 72

日記　①

ボーダー日記：序

母からボーダー入隊記念に日記帳を渡された。
抜けてるところがあるんだから日々教えられたことをしっかり書いて覚えておきなさい、とのこと。
ボーダーは規則を重んじる組織と名高く、学ぶこともたくさんあるので日々の復習を日記としてつけていくのはいいかもしれない。
種類豊富なトリガーの詳細、そして近界民との戦い方や緊急時の対処の仕方、訓練生と正隊員の違いなど……、自分はまだ正式入隊日を迎えたばかりの雛鳥なので覚えることは山ほどある。
それらを忘れて先輩方や職員の人たちにもう一度説明させるという手間をかけさせないために、そしていつか立派なボーダー隊員になるためにも、自力で出来ることはしっかり果たせるようにしよう。

ボーダー日記．０１

今日は待ちに待った正式入隊日だった。
迎えてくれたのはボーダー本部長の忍田さんという男性で、正隊員になって一緒に戦える日を楽しみにしてる、と激励の言葉を貰った。
その後はよくテレビで見る嵐山隊の皆さんにどうすれば正隊員になれるのかという説明と、実際の訓練の体験をさせて貰った。
訓練の内容は三門市の住人なら誰もが一度は眼にしたことがあるであろう大型近界民との仮想戦闘で、嵐山さん曰く訓練用に小型化していてトリオン切れもないから思い切り戦ってみてほしい、とのことだった。
制限時間は五分で早く倒せればそれだけ貰えるポイントは高くなる、そんな指摘を嵐山さんから貰って臨んだ戦闘訓練の結果は――…３分３４秒。
まぁ制限時間内に仮想敵を倒せたのだから、初めてにしては上出来じゃないかと思ったが……その後一分を切る訓練生たちが続出し、中には９秒とかで仮想敵を倒す凄い子とかもいた。
これは小耳に挟んだ話なのだが……、どうやら一分を切ってまぁまぁレベルらしい。
もしこの話が本当なのだとしたら、一分を切るどころか制限時間の半分以上を使って

仮想敵を倒した自分は、もしかしたらボーダー隊員としての素質があまりないのかもしれない。

……、一先ず仮想敵をしっかり倒せただけ良しとする。

ボーダー日記：０２

レイガストは玄人向けのトリガーらしい。

刃モードと盾モードの使い分けを筆頭に、訓練生が使用するには扱いが難しいトリガーだという話を聞いて衝撃を受けた。

訓練生はトリガーを一つしかセット出来ないので、だったら攻守が両立できるレイガストがいいかなという浅い考えで希望を出したのだが……まさか玄人向けだったとは思いもしなかった。

確かに考えてみれば、レイガストは盾モードという堅牢な護りは強みの一つではあるが、他のトリガーと比べればかなり重いし、瞬時の状況判断が求められるランク戦では初心者が刃モードと盾モードの切り替えを状況に応じて使いこなすのは酷と言わざるを得ない。

同じ攻撃手用のトリガーで比べるなら、刃モードの攻撃力・耐久力は弧月より低いし、

スコーピオンのような変形機能こそあれど突出した攻撃性能があるわけでもない。
しかも刃モードと盾モードどちらもその重さは一律で変化なし。
今日のランク戦でも射手や銃手相手に盾モードで咄嗟に身を護れるのは長所だと思ったが、結局近づけないから盾を壊されて負ける試合が何度かあった。
弧月やスコーピオンならその軽快さで壁や民家に隠れながら戦うことが可能だと思うが、レイガストにはそんな派手な立ち回りは不可能だとランク戦を通して痛感した。
しかし、逆に堅実に立ち回れると考えればなるほど確かに様々な戦い方が思い浮かぶが、如何せん自分はトリガーの扱いが未熟も未熟の訓練生。
攻撃手と銃手・射手それぞれの立ち回りの基本が分からなければ、そもそもレイガストをメイントリガーに据えた立ち回り自体分かっていないのだ。
それを加味すれば本能や直感的に立ち回れる他のトリガーと比べて、レイガストが訓練生にオススメ出来ない玄人向けのトリガーだと言われても仕方ないことだろう。
要約すると、訓練生がレイガストを扱うには『経験』と『学習』が他の訓練用トリガーと比べて格段に必要になるということだと思う。
――…面白い、やってやろう。

ボーダー日記．０３

１１勝９敗。

放課後の少し空いた時間で２０戦やった結果、少しコツを掴めて来たような気がする。

攻撃手を相手にする時は必然的に接近戦になるので盾モードではなく刃モードで対応、隙を見つけて、もしくは隙を作って反撃という流れが今のところ一番良い。

銃手や射手は初弾は盾モードで弾丸をやり過ごして、如何に盾の消耗を抑えつつ相手に早く近づくことが出来るかがポイントになってくる。

盾が割れそうな時は壁裏や民家に避難出来るようにある程度地形を把握して動く必要もあるし、この９敗も銃手や射手相手に上手く立ち回れないで落ちた試合が多かったので、今後は相手との距離を詰めつつ地形の把握も出来るような動きに切りえていくことにしようと思う。

と言っても、明日から学校行事とその他諸々が重なってボーダーに顔を出すことは出来ないのだが……、まぁ是非もない。

ボーダー日記：０４

正式入隊からそれほど経ってないのにもうＢ級に上がった同期がいるらしい。
木虎さん、というようで実際に会ったことはないのでイマイチ分からないが……、正式入隊日の時に大型近界民を９秒で倒したあの凄い子のことだとか。
９秒……、正直トリガーの扱いに慣れてきた今の自分でも絶対に無理だと断言せざるを得ない。
自分などまだまだ未熟もいいとことだが、仮にレイガストを使って９秒以内にあの近界民を倒すとしたらどうすればいいのだろうか。
レイガストは重いし、弱点のモノアイを斬るのにどうしたって１０秒以上は使ってしまうことを考えれば……、投擲でもすればいいのだろうか。
確かに距離を詰めるのに時間がかかるなら、武器を手放すことにはなるがそれでもトリオンを使って再構成できるわけだからその手段も悪くないのかもしれない。
まぁ、失敗したらその隙を突かれて終わりだが……槍投げの要領で投げれば案外成功したりする……のか……？
やってみたいという思いはあるが、一先ず基礎が出来なければ元も子もないと思うので、取り合えずそんなことも出来るかもしれない程度に考えておこう。
今日のランク戦は１２勝８敗とまぁ悪くはなかったし、所々思った通りの動きも出来たので収穫はあった。

あとは銃手や射手相手に詰め方を間違わなければ勝率も上がってくると思う。
攻撃手相手はポイントが同じくらい（１５００）の相手と戦ってるからか動きが分かりやすいし、伯父の道場の手伝いをしてるのも相俟って接近戦は結構自信がある。
偶に弧月を刃モードで受け太刀し過ぎて突破されたり、スコーピオンの奇襲を防げなくて負けたりもするので、絶対に勝てるというわけではないが攻撃手相手はもう少しポイントが上の相手と戦ってもいいかもしれない。

ボーダー日記．０５

ボーダーで初めて友だちが出来た。
同期ではあるが年齢的には先輩なので友だち――…、と呼んでいいのかは分からないが、連絡先を交換したということはそれはもう友だちで間違いないと自分は考えてる。
名前は村上　鋼。
自分は村上先輩と呼んでいて、飲み物を買いに行く場所が分からなくてウロウロしてた所を助けてもらったのが出会い。
その後、色々話すことになってお互い同期だと分かり、ならランク戦しませんかと自分から声をかけたのが仲を深める切っ掛けだったと思う。

村上先輩の使うトリガーは弧月で、村上先輩は自分がボーダーではあまり使っている人がいないレイガストを使ってると聞くと驚いていたが、自分でもレイガストを使ってる訓練生とは未だに一度も戦ったことがないので、やっぱり訓練生がレイガストを使うのは珍しいんだなと改めて再認識した瞬間だった。

ランク戦の結果は村上先輩が3勝2敗で勝ち越し――――…、正直、負けるとは思わなかった。

2勝目までは今まで通りの対弧月用の動きで勝てていたのだが、村上先輩が15分の休憩をくれと言ったのでそれに従って3本目を始めてみれば……、結果は惨敗。

先の2戦が嘘だったかのように、自分は村上先輩に完敗した。

本気を出していなかった、という訳ではないことは分かっていたので、ランク戦が終わってから村上先輩に聞いてみると、どうやら村上先輩にはサイドエフェクトという特殊な力があり、強化睡眠記憶という端的に言うなら寝ている間の学習効率が非常に高いというものらしく、村上先輩が提案した15分の休憩でそのサイドエフェクトを使った村上先輩は、自分の動きを学習し弱点を理解しどのように立ち回れば勝てるのかを学習したから勝つことが出来たのだと言った。

ズルをしてすまない、そう皮肉気に村上先輩は言ったが、その時の村上先輩にも言ったように自分はそれをズルとは思わない。

何故なら自分もサイドエフェクトを持っていて、村上先輩とのランク戦でずっと使っていたのだから。

だから条件は同じですよ、そう言ったときの村上先輩の表情はとても印象的だった。

薄い目が限界まで見開かれて呆然と自分を見つめる姿は、失礼だが少し笑ってしまった。

その後、サイドエフェクトを持つ共通点が判明して意気投合し、村上先輩とランク戦のロビーで今後の話をしながら連絡先を交換し、またランク戦をやろうと約束をしてから分かれた。

ランク戦終わりに村上先輩から奢ってもらったジュースは運動した後だからか、普段の何倍も美味しかった。

日記　②

ボーダー日記．０６

ランク戦をしないか、と放課後に村上先輩から誘いを受けたので、学校終わりにそのままボーダーに直行してランク戦をやった。

結果は３勝７敗と今回も負け越し。

敗因の殆どが自分の判断ミスと盾モードと刃モードの切り替えの一瞬の隙を狙われたものだったので、まだまだ精進が必要だなと痛感させられたランク戦だった。

ただ以前から攻撃手はもう少しポイントが上の相手とやってもいいと思っていたので、村上先輩とのランク戦はそういう意味では本当にいい経験になる。

弧月はレイガストの刃モードと比べて攻守の性能が完全に勝っているので、やはり刃モードで正面からつば競り合う時はある程度工夫しなければ今のままでは勝てないだろう。

そうなってくると弧月に勝ってる盾モードの耐久力を上手く使ってという話になっ

てくるのだが、……前述したがその切り替えの隙をつかれて負けたのも事実。
剣の腕、という意味では村上先輩にも負けてないと思うし、純粋に剣で勝負してみるのもいいかもしれないが……、レイガストには重さという欠点があるし、だったら初めから弧月を使えよという話になってくるので頭の片隅に留めて置く程度にしよう。
ちなみに村上先輩の現在のポイントは３３００点ということで、もうすぐＢ級に上がれそうだと嬉しそうに話していた。
そんな村上先輩（攻撃手上位）とのランク戦を経験出来たからか、その後のランク戦ではかなりの数を勝ち越すことが出来て、負け分のポイントを取り返すどころかもうすぐ２０００点に乗りそうなほどポイントが上がったので村上先輩には感謝だ。

ボーダー日記．０７

レイガストの盾モードは使用者のトリオン能力によってその耐久力が変化する、という話を聞いた。
トリオン能力……、当然ボーダー隊員なら誰もが知ってるこの名称だが、自分のトリオン能力がどれくらいあるのか、というのは自分はまだ把握できていなかった。
レイガストの運用のためにもトリオン能力がどれだけあるのかは知っておかなけれ

ばならないと思ったので、取り合えずエンジニアの方たちがいる技術開発室まで足を運んで自分のトリオンを計測して貰った。

結果が出るまでの間、訓練生がどうしてここに？　と肥満体系気味のエンジニアさんに聞かれたので、正直に理由を話したらレイガストを使ってることが琴線に触れたのか、レイガストの運用方法とその強みを長々と聴かされることになった。

聞けばレイガストを開発したエンジニアの一人だということで、訓練生から弾トリガーではなくレイガストを使うとは分かってると何故か凄い絶賛された。

この後に仕事があるから長居は出来ないが、困ったことがあったらいつでも来ていいと言ってそのエンジニアさんは開発室から出て行ってしまったが……、その時はあまりの勢いに押されて曖昧に頷くことしか出来ず、正直話の展開が速すぎて何を言っていたのかも理解できなかったが、今考えればレイガストについてかなり実践的で役に立つ話をしていたと思うので、今度時間があったらまた技術開発室に足を運ぶのもいいかもしれない。

エンジニアさんの名前は、確か――…、テラシマさんだった気がする。

あ、ちなみにトリオン能力は数字で例えるなら9くらいだと言われた。

9ってどれくらいなのだろうか……、射手や銃手でも問題なくやっていけるトリオン量だと補足されたが、いまいちピンと来なかった。

ボーダー日記：０８

今日のランク戦は銃手と射手を相手に１０戦ほどしてきた。

レイガストの盾モードの耐久力を知るために、敢えて被弾覚悟でガンガン距離を詰めながら戦うスタイルを取ってみたが――…、正直これが最適解なのではないかと思ってしまうぐらい上手くいった。

これまでは距離を詰めてもその分すぐに距離を取られ、結果盾を削られ負けるというパターンが多かったのだが、自分は盾モードの耐久力を甘く見ていたかもしれない。

よく考えてみれば今までの射手や銃手を相手にしてきた時は攻撃手を相手にしてきた時と比べれば長期戦になることが多かったし、その理由は盾モードの耐久力が高くて相手が削りきれないからなのだと今更ながら理解した。

それに距離を詰める戦いは銃手や射手などの中距離で戦うことを主体とした相手にはかなりプレッシャーになるだろうし、実際今日のランク戦でも弾の精度がかなり落ちていたのは目に見えて分かった。

訓練生だから、というのも勿論あるだろうが、被弾を恐れず距離を詰めて行くという考えは戦い方の一つとして取り入れるのは悪くないと思う。

今日のランク戦でポイントが２０００点に乗ったので、この調子なら自分もＢ級に上がれる日もそう遅くないかもしれない。

Ｐ．Ｓ．　村上先輩のトリオン能力は７らしい。

ボーダー日記．０９

定期テストが近いので、ボーダーには週一くらいで通うことになりそうだ。

折角いい感じでポイントが上がってきてるのに、なんてタイミングの悪いテストなんだろうか。

まぁボーダーに入りたいと親に頭を下げて、その条件として出された学業との両立を承諾したのは自分なので文句は言えないのだが……、テスト勉強とその他諸々の手伝いの隙間時間にボーダーでランク戦を行うのはどうしたって不可能だし、無理にそんなことをすれば体を壊してしまうことは明白。

そうなったら当然ボーダーを辞めなければならないので、ここは我慢して迫るテストのために勉強に身を入れるべきだろう。

幸いなことに、今回のテストの範囲はそこまで広くないし結構簡単なものも多いから、しっかり勉強すればそう難しいものでもない。

日々ランク戦に誘ってくれる村上先輩には申し訳ないが、テストが近いので勉強するという旨を伝えて置くことにしよう。

ボーダー日記・１０

ボーダー日記ではないが、日常の日記と分けるのも手間なのでこっちで書くことにする。

いや、そもそも書かなければいいのだが……、どうにも定期的に書いてたせいか書かないと気が治まらない感じになってしまったので、何となしに。

今日はクラスメイトとテスト勉強の集まりに呼ばれたのだが、如何せん自分はそこまで口達者な方ではないので、まったく上手く教えられないまま話の輪にも加わることが出来ずに時間だけが過ぎていくという悲しい結果を迎えてしまった。

折角クラスメイトとの交流を深めるいい機会で、皆もあまり喋らず特定のグループにも属さない浮いている自分のためを思って誘ってくれたのだと思うと、何だか無性にやるせない気持ちになった。

友だちがいないというわけではないのだが、話すことが苦手なのでどうにも……、何か共通の話題でもあれば違ってくるかもしれないのだが、自分の話せることなんてそれ

こそボーダーのことくらいのものだ。
しかしボーダーの情報は基本的に外部に話してはいけないし、もしバレたら隊務規定違反で終わりなのでそんなリスクを抱えてまで話そうとは思わない。
そう言えば、三雲とかもクラスでは浮いてると思うけど……三雲は自分みたいなことを考えてたりしないんだろうか。
もし自分のように人付き合いが苦手な性格なら、凄い共感を覚えて仲良くなれそうなものだが……、いや友だちになって下さいって言って断られたら多分立ち直れなさそうだから、現状維持でいいかな。

ボーダー日記．１１

テストが終わったので久しぶりにボーダーに顔を出した。
久しぶりと言っても、合同訓練にはしっかり参加していたのでランク戦のロビーに足を運んだのが久しぶり、というべきだろう。
しばらくランク戦を休んでいたので、ポイントは合同訓練でちょこっと上がっただけの２０００点台を維持したままだったが、これから頑張ってポイントを上げて行くぞと意気込んでたらちょうどランク戦を終えたのか村上先輩と遭遇した。

村上先輩にはテスト期間が終わったことを報告していなかったので、ちょうどいいと思って声をかけようとしたのだが、逆に村上先輩に声をかけられ、少し時間を取れるかと聞かれたので承諾してついていくと、帽子を被った隊員の人のところまで連れて行かれた。

荒船哲次、それが帽子の人の名前で年齢的にもボーダー隊員的にも先輩に当たる人だった。

荒船先輩はB級隊員ということで、何でも自分のテスト期間中にB級に上がった村上先輩と知り合い、流れで村上先輩の師匠になることになったらしい。

師匠とか弟子とかそういうのもあるんだ、と関心していたが、普通に村上先輩がB級に上がっていたことに驚いた。

B級に上がったなら連絡入れてほしかったのにという旨を伝えると、テスト期間中だから悪いと思ったという正論を返されたので押し黙るしかなかった。

それでどうして自分を荒船先輩のところにまで連れてきたのかという本題に入ると、……別段これと言った理由はなかったようで、偶々見かけたからB級に上がった報告と荒船先輩の紹介をして置きたかったという些細な理由らしい。

まぁボーダーで人脈が増えることは悪いことではないし、ちょうど時間も空いていたからいいのだが……、そんなことを考えてたら荒船先輩から自分の力を見せてほしいと

言われ、断る暇もなくC級ランク戦のロビーへ連行され、無理やりブースに放り込まれた。

ロビーで村上先輩と荒船先輩が見てると思うと流石に少しばかり緊張したが、どうせランク戦はやるつもりだったんだしちょうどいいかと思いつつ、適当にポイントの近い相手を探していき、どうせなら弧月相手がいいかと思い２３００点ほどの訓練生に相手を申し込んだ。

結果、村上先輩とかなりの数ランク戦をしてきた身としては当然負けることもなく、一本勝負を五人とやって全勝しロビーへ向かった。

村上先輩は荒船先輩に自分がレイガストを使うと言ってなかったのか、ロビーへ戻った時にはレイガスト使うのか!?　と随分と驚かれた。

B級目線で自分はどうだったかと問いかけると、粗いところはあるがB級でも十分やっていけると高評価をいただいた。B級の隊員からそういって貰えると自信もつくというものだ。

そしてB級に上がれば正隊員として扱われるのでトリガーセットも自由に編成できるし、レイガストならスラスターというオプショントリガーもあるのでそれを使えばもっと戦術の幅も広がるぞと言われ俄然やる気が沸いた。

ついでにB級に上がったら一戦やろうぜとも言われたので、ただで負けるつもりはあ

りませんと返しておいた。

日記　③

ボーダー日記．１２

荒船先輩は後輩思いの良い先輩だ。

この前知り合っただけの自分に親身になって接してくれるし、ここをこうした方がいいんじゃないかとか、あの時は受けに回らず攻めるべきだったなとか、わざわざC級の自分のランク戦を観戦しに来て毎回アドバイスをしてくれるものだから、本当に人間が出来ていると尊敬する。

村上先輩にも攻撃手としての技術を惜しみなく教えてるみたいで、村上先輩自身も荒船の指導は分かりやすいと言ってるし、もしかしなくても荒船先輩は教育者としての才能があるのかもしれない。

自分もいつか後輩が出来たら荒船先輩みたいな先輩になりたいものだ、……まぁ、テスト勉強一つ満足に教えられない自分では大分困難な話ではあると思うが。

明日からは連休なのでボーダーでポイント上げを頑張ろうと思う。

ボーダー日記：１３

連休だと言ったが、伯父の道場が大分忙しいとのことで今日は雑用の手伝いで一日が終わってしまった。

村上先輩たちから今日は来ないのか？　とメールが送られてきたのだが、それを見たのが手伝いが終わった後だったので、自分のことを本部で２時間ほど待ってくれていた先輩たちには本当に申し訳ないことをしてしまった。

二人ともそういうことなら全然大丈夫だと言ってくれたが、今後はなるべく注意しようと思う。

そして、気づけば村上先輩と同期なのにもう倍以上ポイントが離れてしまっていた現状に驚いた。

村上先輩はランク戦やってる時間の差だよ、と言っていたが……、まぁ村上先輩ほどの実力があればそれも当然かなとも思う。

そう言えば、Ａ級に昇格する条件は部隊ランク戦というので勝ち進まなければいけないと聞いたのだが、……村上先輩は部隊とか組むのだろうか？　組むとしたら荒船先輩とかかな？　自分も早くＢ級に上がってそういう話についていけるようになりたい。

ボーダー日記・　１４

疲れた。
半日近くランク戦のブースに篭ってポイント上げしてたせいか疲労感が凄い。
ボーダーでは半日どころか一日中篭ってる人も珍しくないみたいなので、この程度で音を上げていては駄目だと思うのだが……、如何せん今まで長くても二時間とかだったので、いきなり半日は無理があったかなと思わないでもない。
だが、それに見合うだけの収穫はあった。
まずポイントだが、村上先輩と荒船先輩の指導のお陰で遂に３０００ポイントに到達した、これは嬉しい。
レイガストの刃モードと盾モードの使い分けも自信を持てるくらいには出来るようになったし、今日のランク戦の８割強の勝率を考えれば自分が成長しているという実感は確かにある。
後は偶にする初歩的なミスと詰めの反撃（カウンター）に冷静に対処することを意識してればＢ級には昇格できると思う。
まぁあくまでＢ級に上がれるまでの間だけで、先を見据えるならまだまだ考えること

や正すところはあるが、……一先ず目先のことから一つ一つ対処していくことにしよう。

千里の道も一歩から、というしな。

ボーダー日記：１５

Ｂ級になったらどんなトリガー構成にするんだ？　と荒船先輩に聞かれた。

気が早くないですか、と思わず返答してしまったが、どうやらどんなトリガー構成にするのか村上先輩が悩んでいるから、自分もそうならないようになるべく早いうちに決めておけとのこと。

確かに明確な将来のイメージがあった方が物事は進みやすいというし、３０００点台にポイントが乗った今ならモチベーション向上や維持のためにもいいかもしれない。

自分の中で気になっているのは、以前荒船先輩が言っていたスラスターというレイガストのオプショントリガーなのだが、オプショントリガーというだけあり訓練生が使ってる筈もなくどんな能力なのかイマイチ把握できていない。

トリガーに関してなら技術開発室の職員さんに聞くのが一番なのだが、いつも忙しそうにしているのを見るとただの訓練生の自分のために時間を割いてもらうのは申し訳

ないので、やはりそう言うのは正隊員になってからやるべきなのだろう。
……、いや、そう言えば困ったことがあったらいつでも来ていいとテラシマさんに言われたことがあるので、その伝を使えばもしかしたら大丈夫かもしれない。
まぁ、テラシマさんがいなかったら意味のないことなのだが……、取り合えず、明日テラシマさんがいないか技術開発室に言ってみることにしよう。

ボーダー日記．１６

B級に昇格したら絶対にスラスターをトリガーセットに入れよう。
偶々開発室にいた寺島さんから話を聞いて、もう早くB級に上がりたくて仕方なくなってしまった。
トリオンを噴出してレイガストそのものを大幅に加速させる……、説明を聞いただけで実際に使ったわけではないが、聞いただけでレイガストの重さという欠点を打ち消して余りあるとんでもないトリガーだと確信した。
ただ扱いが難しいから要練習なトリガーだと寺島さんは言っていたが、その点は一切問題ない。
もうすぐ長期休みの時期なのでそうなればボーダーに足を運ぶ機会も増えるので、練

習量は今の何倍にも時間が取れるだろう。
それとこれはほぼ確信してるのだが、スラスターと自分のサイドエフェクトは相性が最高だと思う。
だからコツさえ掴めれば、レイガストの一番の欠点だった機動力の損失を補えるかもしれない。
そうなれば今まで苦手だった銃手や射手などの中距離相手にも問題なく戦えるし、より接近戦で強みを発揮することも出来る。
後はトリオンをどれだけ使うのか、という問題だが……寺島さんは自分ぐらいトリオンが豊富なら多用しても問題ないと言っていたので大丈夫だとは思う。
B級に上がったらレイガスト二刀流なんてどうだ？　と言われたが、流石にそれはと思ったので曖昧に返しておいた。
個人的にはトリオンが豊富だというなら、その強みを活かせる銃手か射手のどちらかをやってみようかなとは考えてる。
まぁ寺島さんの言ったようにレイガスト二刀流も夢があっていいとは思うが、実用的な戦い方が思い浮かぶまでは一先ず保留ということで。

ボーダー日記：１７

今日は荒船先輩の行きつけだという、お好み焼きのお店に連れて行ってもらった。
何でも荒船先輩の知り合いがここのお店の次男坊らしく、めちゃくちゃ美味いと評判らしい。
お好み焼きはあまり食べたことがなかったから美味い基準というのがイマイチ分からなかったので、美味しいことは確かなのだろうけどあんまり味の違いとかは分からないんだろうな……、お店でいざ食べてみるまではそう思っていた。
正直、お好み焼きを舐めていた。
もうめちゃくちゃ美味かった、今まで食べたどの料理よりも美味しかったと断言できるくらい。
荒船先輩たちが焼くのが上手かったからというのもあるのかもしれないが、香ばしいソースの匂いと食欲を刺激するあの見た目が何より良かった。
村上先輩に焼いてみるか？　と言われて失敗してぐちゃぐちゃになってしまった時は大笑いされたが、荒船先輩の知り合いだというカゲという店員さんに手伝って貰ってどうにか成功することが出来た。
あのお好み焼きをひっくり返した時の達成感は今でも忘れられない。
何より自分で作ったからか美味しさもひとしおだったし、説明が凄い分かりやすく手

馴れてるように軽々とひっくり返す店員さんには尊敬すら覚えた。
そんな店員さんを荒船先輩と村上先輩は頻繁にからかっていて、三人は仲が良いんだなと暖かい気持ちになった。
また時間が空いたら、今度は一人でお好み焼きを食べに行ってもいいかもしれない。

ボーダー日記　１８

祝・Ｂ級昇格！
ボーダーに入隊して早いもので二ヶ月と少し、ようやくポイントが４０００点に乗ったので晴れて正隊員としてボーダーで活動することになった、嬉しい。
Ｂ級になったので、今後は部隊を組んでＡ級を目指すも良し、個人で活動して今まで通りポイント上げに務めるも良し、と選択肢がかなり広がった。
念願だった正隊員用のトリガーも貰えたし、しばらくは自分に合ったトリガーセットの模索とその試験運用が主になると思うので、部隊を組んでＡ級を目指すのは大分先になりそうだ。
ただ、やっぱりいつかはＡ級になりたいと思う。
Ａ級になればトリガーを自分なりに改造できるみたいだし、近界へ遠征に行くことも

出来るらしい。

どちらも興味が尽きないが、まずは目先のことからやっていこうと思う。

明日は放課後に自分のB級昇格祝いということで、村上先輩たちがまたお好み焼きに連れて行ってくれるというので、明後日くらいに寺島さんのところに行ってB級に上がった報告と今考えてるトリガーのセットをお願いしようと考えてる。

B級隊員は訓練生と違って防衛任務があるので、なるべく早いことに越したことはないだろう。

忍田本部長はまだB級に上がりたてで部隊も組んでないから、どこか別の部隊との合同任務になると言っていたが……、いざ本物の近界民と戦うことになると思うとやはり緊張するな。

それに別の部隊との合同任務、というのも別の意味で緊張するし……。

出来るなら村上先輩とか荒船先輩とかと一緒だと嬉しいんだが……、まぁそう都合よくは行かないと思うので、迷惑かけて足並みを乱すことだけはしないように心がけよう。

日記　④

ボーダー日記．１９

以前訪れたお好み焼きのお店の、村上先輩や荒船先輩の知り合いだというあの目つきの鋭い店員さん――…、何とボーダー隊員で、しかもＢ級上位の部隊の隊長という凄い人だった。

影浦　雅人だ、と自己紹介して貰ってので自分も自己紹介して、影浦先輩と呼ばせてもらうことになった。

影浦先輩は２年くらい前にボーダーに入隊したようで、荒船先輩曰くスコーピオンを扱う技術はボーダーでもトップクラスとのことらしく、ポイントは１００００点を超えてるという話を聞いた時は思わず水を噴出しそうになった。

やはりＢ級上位にもなるとポイントが五桁になるのか……、と現状の自分のポイントを考えて改めてＡ級は遠い道のりだと実感した。

それから先輩方の会話を聞いている内に影浦先輩から、メイントリガーは何使うんだ

？　という定番の質問をされたので、レイガストを使ってます、と答えたら楽しそうに笑って、今度ランク戦やるぞと誘われてしまった。

流石に影浦先輩相手に今の自分では勝ち目は皆無だと思ったので断ろうと考えたが、自分の目指すA級の実力を知るにはこれ以上ない機会だとも思ったので、胸をお借りしますと承諾させて貰った。

ただ、影浦先輩的には冗談で言っていたのか、自分がまさか本当に受けるとは思っていなかったようで……、お前面白ぇヤツだなと笑われてしまった。

荒船先輩や村上先輩もそんな自分を見てやれやれと肩をすくめながら笑っていたので、もう凄い恥ずかしかった。

ボーダー日記．２０

寺島さんのところに行って、銃手か射手用のトリガーを使ってみたいという話をしたら凄い嫌そうな顔をされた。

何でもレイガストを作った理由は、当時強化され流行った弾トリガーに対抗するために作ったものらしく、弾トリガーには並々ならぬ感情があるのか、君には弾トリガーを使ってほしくない、とまで言われてしまった。

そうは言っても、レイガストを使う上で中・遠距離の対策はどうしても必要なので、そこをどうにかお願いします、と頭を下げて1時間の説得の末ようやく使うことを許してもらった。

何で自分が寺島さんにそんなことをしなければならなかったのか今になって考えれば疑問が尽きないが、他の隊員の人たちより目をかけて貰っていることを考えたら別段苦にはならないので特に気にしないことにした。

……そんなこんなで、射手用トリガーのハウンドをサブトリガーにセットしてみてはどうかという話になった。

何で射手なのか、寺島さんが銃手用のトリガーよりマシだから選んだ、……という訳ではなく、単純に銃型のトリガーだとレイガストをメインで使う時に両手が塞がってしまい、より機動力の低下を招くことになるからだと寺島さんは言っていた。

射手用のトリガーは扱うのにセンスが必要で、扱いに慣れるまで時間を要することが難点だが、相手を自動で追尾するハウンドなら他の射手用トリガーと比べ使いやすく小回りもきくからレイガストを使うなら取っておいて損はないとのこと。

ということで、取り合えずメインにレイガストとスラスター、サブにハウンドとシールドを入れることにした。

他にも使ってみたいトリガーは色々あったが、あまり詳しくないトリガーを入れ過ぎ

ても実戦で使いこなせないと思うので、一先ずはスラスターとハウンドをある程度使いこなせるようになってから別のトリガーには着手して行きたいと思う。

ボーダー日記．２１

ハウンドはトリオンを追う探知誘導と視線でより正確に追う視線誘導の二種類の機能があると学んだ。

訓練場である程度使ってみたが……、探知誘導はトリオンを追うだけなので、バッグワームというトリガーでトリオン体の反応を隠している時はこの探知誘導は機能しないから、ハウンドを使う時はなるべく視線誘導で使ったほうがいいのかもしれない。

まぁ基本的にハウンドを使う時は相手との距離を詰める時なので、そうなったら相手がバッグワームを起動していない可能性の方が高いので一概には言えないが、視線で追うだけならさして苦労もないし、訓練室でハウンドの練習をしてた時もそれなりに扱えてるとは思ったので、ハウンドの方は今の方針でしばらく使っていこうと思う。

シールドは今までずっとレイガストを使ってたからか、必要ない動作だと分かっていても相手の攻撃に合わせて反射的に手を出して張ってしまう癖を直したほうがいいだろう。

後はレイガストの盾モードよりも耐久力は低いので、レイガストの盾モードのように立ち回るのではなく、レイガストの盾モードで防ぐのが難しい攻撃、もしくはレイガストを攻撃に用いているときの隙をカバーするような使い方が自分には合ってると感じた。

そして最後にスラスターだが――…、自分の思った通り、サイドエフェクトとの相性は良好だった。

トリオンを噴出させブレードを加速させる、という力がどれだけのものなのか不安ではあったが、あれくらいならまだまだ制御できる範囲だし空中で使っても特に問題はなかった。

これなら寺島さんの言っていたレイガスト二刀流も現実味を帯びてくるかもしれない、……まぁそれが良いことなのか悪いことなのかは実際に試してみないことにはどうにも言えないのだが。

トリガーセットには一応枠が開いてるので、やはり考えておく程度に留めておこう。

今日は訓練室でトリガーの性能を確認したので、明日からは実際にランク戦で使ってみて、自分にとってこのトリガーセットが使い易いか否かを判断していこうと思う。

ボーダー日記：２２

１４勝６敗、――…まずまずの出来だと思う。

今日ランク戦をした相手は１０戦は自分と同じくらいのポイントの相手で、もう１０戦は５００ポイントほど上の相手との試合だったのだが……前者には1敗、後者には5敗と、トリガーの熟練度という面がかなり勝敗に響いたランク戦だなと感じた。

訓練生の時のランク戦は互いに使えるトリガーが一つだけなので、ランク戦を始める前には相手がどんなトリガーを使うのか予め分かっていたから始まる前に対策を立てることが出来た。

しかしB級になってからは相手のトリガーセットがメインのトリガー以外判断できないので、C級の頃のように対策を立てて距離を取られないように詰めて戦うという動き方よりは、シールドやハウンドを上手く使って時間をかけてもいいから相手の戦い方を見極めて、その隙をついて戦っていくという方法のがいいかもしれない。

レイガストの盾モードは他の追随を許さない耐久力という長所を最大限に活かして、盾の裏でじっくり相手の動きを観察、その思考や癖を見抜いて戦う――…、うん、多分これが自分に一番合ってる戦い方だろう。

後は自分が相手を見極める前にやられてしまっては意味がないので、その弱点に注意しながら立ち回るのも大事になってくると思う。

一先ずトリガーセットは今のままでいいから、場数を積んで色んな状況や戦い方を経験するのが最優先だな。

ボーダー日記．２３

荒船先輩と１０本勝負のランク戦をした。

以前Ｂ級に上がったら一戦やろうという約束をしていたので、いつかはやると思っていたがまさかこんなに早くやることになるとは思ってもいなかった。

荒船先輩のメイントリガーは弧月で、そのポイントは６０００に迫るほどなので今の自分とのポイント差を考えたら間違いなく格上の相手だった。

基本的にはハウンドで牽制しながら、頃合いを見てレイガストとスラスターを使って距離を詰めながら戦っていたのだが……、やはりそこは先輩の威厳と言うか貫禄と言うか、１勝８敗１分と完敗だった。

弧月の錬度は勿論だが、瞬時の状況判断とそれに応じたトリガーの切り替えがやはり自分とは比べ物にならず、とても学ぶことが多い試合だった。

荒船先輩に唯一勝った試合はスラスターを使った空中からのレイガストの強襲だったのだが、それも二回目からはすぐに対応してきたし最後の１分も荒船先輩の気の緩み

から強引にもぎ取ったようなものなので、まだまだ自分の実力は場数を踏んだ正隊員には及ばないことを痛感した。
試合を見てた村上先輩はいい試合だったと言ってくれたし、荒船先輩もついこの前までC級だったヤツの動きとは思えなかった、と褒めてくれたが、……それでも負けは負け。
次に荒船先輩とランク戦をする時は勝ち越せるように精進しなければ。

ボーダー日記・２４

村上先輩からレイガストの使い方を教えてほしいと頼まれた。
てっきりランク戦か模擬戦の誘いかと思ってただけに、あまりに予想外の言葉にしばらく言葉が出なかった。
自分的にはレイガストの使い方を教えるのは一向に構わないのだが……自分はまだまだレイガストを扱いきれてないので、教えることなんてそんなにないと思いますけどそれでも良ければ、と言ったら迷いなく大丈夫だと返答された。
というかどうしてレイガストなんだろう？　他にも村上先輩にあいそうなトリガーはたくさんあると思うのだが……、そう聞いたらこの前の荒船先輩と自分のランク戦を

見て何やら思うところがあったらしく、それが切っ掛けらしい。

正直よく分からなかったが、自分も村上先輩に教えることで新しい発見や技術の向上に繋がるかもしれないので、悪い話ではないと思ったのでそれならと話を引き受けることにした。

代わりに何か教えてほしいことはあるか？　と村上先輩に聞かれたけど、村上先輩は射手の経験がある訳じゃないし弧月も今は使おうと考えてないので、代わりに模擬戦やトリガーの練習に付き合ってほしい、と言ったら、それくらいならお安い御用だ、と快く引き受けてくれた。

というわけで、これからしばらく村上先輩にレイガストを教えることになった。

日記　⑤

ボーダー日記：２５

村上先輩との練習中、Ｂ級とＣ級でのランク戦の違いを教えてもらった。

Ｃ級では攻撃用に使うトリガーが一つしかなかったので必然的に貰うポイントはそのトリガーに与えられていたが、Ｂ級ではランク戦に勝ったからといってその全ポイントがメインのトリガー（自分で例えるならレイガスト）に与えられるのではなく、メインとサブの両方で攻撃用トリガーを使ってランク戦に勝った場合、振り分けられるポイントは止めをさしたトリガーが７割、反対側のトリガーに３割で配分されるとのこと。

ということは、ランク戦でメイントリガーのポイントを上げたい場合はなるべくメインで止めをさせばいいのか――…、と思ったが、それを意識して負けてしまっては本末転倒なので、Ｂ級ランク戦にはそういう仕様があると頭の片隅に留めておくだけにする。

トリガーのポイントは勝ち進んでいけばそれに比例して勝手に上がっていくし、別に

短期間でメイントリガーのポイントを上げなければならない理由もない。
というか、今は村上先輩にレイガストを教えることで手一杯なので、あまりランク戦をやっている時間が取れないというのが本音だ。

ボーダー日記．２６

同期でもうＡ級に上がった人がいるらしい。
その話を聞いた時は木虎さんだろうかと思ったが、どうやら木虎さんではなく別の人みたいだ。
名前などの詳細なことは聞けなかったのでどんな人かは定かではないが、部隊ランク戦のない今の時期にＡ級に昇格してるということは、Ａ級のどこかの部隊に勧誘されてＡ級になったということだと思う。
Ａ級の隊員に勧誘されるということは、考え得る限り村上先輩や木虎さんよりも高い素質を持った隊員ということだろうし、木虎さんや村上先輩の異例の昇格の早さも考えると自分の同期は才能豊かな人材が多いのかもしれない。
そんな人たちと同期だというのは素直に嬉しいし、負けてられないという気持ちにもなっていい刺激になる。

もうすぐ学校が終わって夏休みに入るので、その期間を目一杯使って少しでも同期メンバーとの差を縮めていけたらいいなと思う。

ボーダー日記．２７

今日は初めての防衛任務をやった。

一緒に防衛任務に臨ませて貰ったのは、まさかの影浦先輩の部隊だった。

影浦先輩の部隊は……何と言うか、凄い個性的な人たちの集まりで、合同任務で迷惑をかけないようにと緊張していた自分が、気づけばどうやってこの人たちの話に対応すればいいのか、と別の意味で緊張していたくらい、フリーダムな人たちだった。

特に影浦先輩の部隊のオペレーターを務める仁礼先輩が、初めて会話するのにも関わらず凄くフランクに接してくるものだから、どんな言葉を返せばいいのか分からずとても困らされた。

影浦先輩の親友だと語る（影浦先輩には否定されていた）北添先輩は、いつものことだから聞き流してていいよ、と言って度々フォローしてくれたのが唯一の救いで、影浦先輩は自分と仁礼先輩のやり取りを面白そうに笑いながら聞いてたので正直恨んだ。

ただ――…、やはりＢ級上位の部隊というだけあり、その戦い振りは目を見張るほど

の凄まじい物だった。
一人一人のトリガーを扱う技術は言うまでもなく、一見ふざけて戦ってるように見えるが常に互いが互いをサポート出来る位置取りで戦っていて、オペレーターの仁礼先輩の支援も的確で何度も助けられた。
自分がしたことと言えば影浦先輩たちが偶に仕留め損ねる近界民にハウンドで止めをさしたり、遠くから砲撃をしようとしていた近界民をスラスター投擲で一匹二匹倒した程度のものだ。
北添先輩は助かったよーと言ってくれたが、今考えれば自分に経験を積ませるために敢えて放置していたんじゃないかと思う。
その時の自分は役割をこなすことで手一杯だっただけに、それだけの余裕を持って近界民と戦える先輩たちには心から凄いなと憧れてしまった。
そうこうして防衛任務は終わったのだが、仁礼先輩が今日は影浦隊に一人欠席が出てることを明かされ、しかもその一人が自分と同期だと言われた時は驚きのあまり言葉が出なかった。
その同期の人は狙撃手をやっているようで、その手の界隈では天才と名高い才気に溢れた逸材だと仁礼先輩が絶賛していた。
防衛任務終わりの帰り道、やっぱり自分の同期は凄い人ばかりなんだなと、改めて思

い知らされた。

ボーダー日記．２８

待望の夏休みに入った。

今日は祝・夏休みということでクラスメイトに打ち上げ（？）に誘われ参加することになった。

ただどこで打ち上げをするとかはまったく決めていなかったようなので、人数もそれほど多くなかったから影浦先輩のお店なんてどうかと思い、当日で申し訳なかったが影浦先輩に連絡して聞いてみた。

するとそう時間も経たない内に影浦先輩から承諾を貰ったので、クラスメイトにそのことを伝え影浦先輩のお店で打ち上げをすることが決まった訳なのだが……、その時にクラスメイトから、自分にもそんな人脈があったのかと驚かれた時は皆が自分にどんな印象を抱いてるのか察してしまい少し悲しい気持ちになった。

そんなこんなで始まった打ち上げは、自分が影浦先輩から教えてもらったお好み焼きの腕を披露する絶好の機会もあり、かなり親睦を深められた気がした。

自分の失敗談を嬉々としてクラスメイトに暴露し始めた影浦先輩にはどうしたもの

かと頭を抱えたが、……まぁそれも結果よければ、というヤツだ。
それと、自分がボーダー隊員であることがクラスメイトにバレてしまった。
いや隠していた訳ではないし後ろめたいこともないので構わないが、クラスメイトは皆かなりののボーダーファンだったようで、どうして言ってくれなかったんだと小一時間ほど問い詰められて何だか申し訳なくなってしまった。
ただ、まさか三雲もボーダーに興味を持っているとは思わなかった。
ボーダーに入る試験は何をやったのかとか、入隊条件とかは他にないのかとか、才能とか必要なのかとか……、それはもう色々聞かれて、少しだけ自分の中での三雲の印象が変わった。
しかしボーダー関係のことは口外することを禁止させられているので、三雲には悪いと思ったが大半の質問には口を噤まざるを得なかった。
三雲に限らずボーダーの話を聞けると興味津々だった皆もそれなら仕方ないと納得してくれたので悪い印象は抱かれてないと思うが、……大丈夫だろうか、書いてて少し心配になってきた。
これで夏休み明けからイジメとかに発展したら……いや大丈夫だ、そんなことは絶対にない。
明日からは本格的にボーダーに通い詰めることになるのだし、今日の日記はもうこの

辺で終わりにしよう。

ボーダー日記．２９

ボーダーでは、攻撃手用トリガーと銃手もしくは射手用トリガーの二つでそれぞれ６０００ポイントを超えると万能手と呼ばれるようになるらしい。

万能手はボーダーでは既に結構な数がいるらしく、もし万能手を目指しているなら隊員の誰かに師匠になって貰うのもいいかもしれないぞ、と荒船先輩から指摘された。

万能手なんてものもあるのかと話を聞きながら関心していたが、確かに一人で強くなるには限界があるし、村上先輩が荒船先輩に弧月の師事を受けているように自分も誰かに師事を乞うのはいいかもしれない。

ただ荒船先輩曰く、レイガストをメインに使った万能手は思いつく限り一人だけで、あまり本部に顔を出す人じゃないから難しいかもしれないとのこと。

だから、もし誰かに師事を乞うならレイガストの師匠と射手の師匠で分けた方がいいぞ、と言われ、ちょうどこの時期は部隊ランク戦の最中だからその試合映像を参考にして自分に合った戦い方をする師匠を選んだほうがいい、と助言を貰った。

当然頼んだからと言って必ず受けて貰えるとは限らないので、予めその辺の準備はし

ておけと言われたが……、いきなり見ず知らずの人間に師匠になって下さいと頭を下げられたら、自分でも絶対に断る自信があるので、まず師事をする前にある程度交流を図ったほうがいいかもしれない。

まぁ、その交流が自分にとって一番の難題であるのだが……、こればっかりは自分でどうにかしていくしかないだろう。

それに必ずしも師匠を取らなければいけないという訳ではないし、荒船先輩も選択肢の一つとして考えておけばいいと言っていたので、そういう手段もあるんだくらいに考えておこうと思う。

むしろ自分的には、部隊ランク戦の試合を解説付きで観戦できる、という点が今日の荒船先輩との会話で一番の収穫だった。

てっきり部隊を組まなきゃそういうのは出来ないと思っていただけに、個人でも観戦が許されるなら積極的に観戦には顔を出すべきだと思う。

上手い人の動き方や考えを学ぶことはどの分野でも上達する上では必要不可欠なことなので、次の部隊ランク戦には絶対に観戦に行こう。

影浦先輩の部隊もランク戦には出ていると言うし、参考云々もあるし普通に試合としても楽しめそうだ。

日記　⑥

ボーダー日記．３０

この前の防衛任務で影浦先輩という攻撃手の中でもトップクラスの使い手を目にした影響か、今日のランク戦では攻撃手相手に自分の思い描いてた以上の動きが出来たと思う。

流石に自分と同じくらいのポイントの相手と影浦先輩を比べるのは酷だと思ったが、いざ脳裏に残る影浦先輩と対戦相手の動きを比較しながら戦ってると相手の隙の多さがかなり目立ってて、どう攻めれば自分が有利な状況に持ち込めるか、どんな動きをすれば相手が嫌がるのか、そんなことを考えていられるくらいの余裕を持って戦うことが出来た。

お陰でレイガストのポイントがもうすぐ５０００点に乗りそうだし、ハウンドやスラスターも今では違和感なく使えるようになれた。

相変わらずシールドを手で張る癖はメインでレイガストを使ってる影響か全然治ら

ないが……、そこは追々直していこう。
安定して勝てるようになってポイントが６０００点に乗ったらそろそろ他のトリガーを取り入れてみてもいいかもしれない。
個人的に少し気になるトリガーを寺島さんから教えてもらったので、それを使ってみようと考えてる。

ボーダー日記．３１

荒船先輩から、自分がＢ級の間で有名になってるという話をされた。
有名になるような行動をした覚えはなかったので、どういうことですか？　と詳細を聞いてみると、Ｂ級に上がりたての新人でとんでもないレイガスト使いがいる、という噂が流れてるらしい。
実際に自分の名前を聞いたわけではないと語る荒船先輩だが、新人でメイントリガーにレイガストつけてるヤツお前以外いないだろ？　ということで、この噂の正体が自分だと確信したらしく、何をやらかしたのか気になって話を聞きにきたとのこと。
確かに新人でレイガスト使いなんて自分以外に見たことはないが、……だからと言って自分たちが知らないだけという可能性もあるので、自分だと断定するのは些か早急で

はないだろうか。
そんな返答をしたら、相変わらず鈍いヤツだなお前、と何故か呆れられた。
そして続けざまに荒船先輩から、村上先輩やその他の同期が目立ち過ぎて霞んでいるが自分も充分天才の一人なんだからそれを自覚しろ、と指摘された。
豊富なトリオン量、天性のサイドエフェクト、そしてそれらを活かす高い身体能力が自分にはあるのだと。
正直、正式入隊日の大型近界民の討伐タイムが印象的過ぎてあまりそうは思わないが……寺島さんからトリオン能力が高いというだけでそれは才能の一つと聞いたことがあるので、そこは素直にお礼を言っておくことにした。
話が逸れたが、結局荒船先輩の自分は何をやらかしたのか、という問いには答えられなかった。
何故なら思い返す限り自分はいつも通りランク戦をしていただけだし、目立つようなことは何もしてないのだから仕方ない。
ただその答えに納得いかなかったのか荒船先輩からは終始疑うような目で見られたが……、一体自分のことを問題児か何かと勘違いしているんだろうか？

ボーダー日記．３２

ボーダーには本部以外にも支部と呼ばれる拠点が幾つかあるらしい。
ランク戦の後、昼食の席で村上先輩からボーダーの支部について教えてもらった。
その話を聞いて、そう言えば入隊試験の面接で希望する配属先を聞かれたのを思い出し、その時はどこでも構いませんと言ったことも思い出した。
自分は結果的に本部所属の隊員になったが、どうやら自分と同じことを言った村上先輩は本部ではなくその支部――正確には鈴鳴支部という場所に配属されることになったとのこと。
鈴鳴支部はまだ出来て間もない支部らしく、自分を含めて正隊員が４人しかいないかなり小規模な支部だと村上先輩は言っていた。
支部所属の隊員が平均でどれくらいいるのかは自分には分からないが、確かに正隊員が４人は少ないなと思う。
しかし村上先輩曰く、優しい先輩と面白い後輩がいる楽しい支部だとのことで、今度暇があったら遊びに来るといいと言われた。
村上先輩がそう言うからには心配することはないのだろうが、如何せん心の準備がまったく出来てないのでしばらくは遊びに行くことは無理だと思う。
というか、普段村上先輩をランク戦のロビー以外の場所で見かけないのは、基本的に

本部ではなく支部にいるからということが理由だったのか。
それを考えたら、度々ランク戦しませんかと連絡してわざわざ本部まで足を運んで貰ってる村上先輩には悪いことをしてしまったかもしれない。
まぁ村上先輩はそんなこと気にしないと言うだろうが、それでも今後は村上先輩の事情を考えて言葉を選んで連絡してみようと思う。
……今考えたら、あの面接官の人の気持ち一つで、もしかしたら自分と村上先輩の立場は逆になってたのかもしれないのか。
そうなったら多分自分は村上先輩や荒船先輩、それに影浦先輩たちとも交流を持てなかったと思うので、配属先をどこでもいいと言った自分を本部所属にしてくれたあの面接官の人には感謝しなければ。

ボーダー日記・３３

部隊ランク戦見たかったな……。
昼の部はランク戦に熱中してて見逃してしまったが、夜の部もあると聞いてランク戦のブースを抜けて駆け足で向かったのだが……間が悪いことに、家の用事で母から急な呼び出しを受け帰宅する羽目に。

結局、ランク戦を見ることは出来なかった。
影浦先輩の部隊が出るというから楽しみにしてたが……村上先輩たちから影浦先輩たちが勝ったと聞いてしまっただけに、それならば余計見たかったと思ってしまう。
まぁ昼の部を見逃したのは完全に自己責任だし、ボーダーと日常生活を両立すると約束した手前母にも逆らえないから、仕方なかったと諦めて次からはこんなことがないように注意しよう。
そう言えば村上先輩から聞いて分かったのだが、荒船先輩が弧月で７０００点に乗ったらしい。
６０００点以降は相手のレベルが今までと比べてかなり上がってると聞いたし、その中で勝ち上がってポイントを上げ続けてる荒船先輩は凄いと思う。
村上先輩も着々とポイントを上げているようだし、自分も先輩たちに負けないよう頑張ろう。

ボーダー日記．３４

自分は木虎さんに嫌われているのだろうか？
今日の防衛任務で正式入隊日でもお世話になった嵐山隊の皆さんと臨むことになっ

たのだが……そこで嵐山隊に入隊していた木虎さんと初めて会ったから、よろしくお願いします、と挨拶したものの返ってきた答えは、足は引っ張らないで、という辛辣な返答。

最初は伯父と同じ厳格な人なのかと思ったが、警戒区域の巡回中や近界民との戦闘など、事ある毎に嵐山隊の人たちとは明らかに差がある冷たい対応をされて、自分はもしかして無意識の内に木虎さんの気に障ることをしてしまったのかと防衛任務中気が気でなかった。

特に木虎さんが仕留め損ねた近界民をハウンドで止めをさした時なんかは、嵐山先輩や時枝先輩がそうした時は、すみません助かりました、と頭を下げるのに自分には、邪魔しないで、の一点張り。

その度に先輩たちがフォローして気を使ってくれるので、申し訳なさというか罪悪感が半端じゃなかった。

戦闘で足を引っ張る場面は多分なかったと思うが、それ以外の面で要らない苦労をかけさせてしまった先輩たちには今度会ったら改めて謝っておこうと思う。

それと木虎さんが一緒にいたので聞けなかったが、その時は嵐山先輩たちに自分がどうして嫌われてるのか木虎さんのいない時にそれとなく聞いてみようと思う。

ただ、戦闘面に関して言えば木虎さんは噂通りの凄い人だった。

メインで使う拳銃の腕は正確に近界民のモノアイを撃ち抜いていたし、その高い機動力を活かしたスコーピオンでの近接戦も影浦先輩に近しいものを感じた。
もし仲良くなれたら、是非ともランク戦か模擬戦で手合わせをしたいものだ。
……あの様子では多分無理だと思うが。

ボーダー日記：３５

学校の課題をやってたら気づけば夕方になっていた。
夕方からボーダーに行っても殆どの隊員はいないだろうし、そもそも母がそれを許すとは思えないので、今日のランク戦は仕方なく諦めることにした。
しかし携帯を開くと先輩たちからの連絡がぎっしりと画面に詰め込まれていて、その全てがランク戦か模擬戦やるぞというお誘いだった。
相変わらずバトルジャンキーな先輩たちに苦笑しつつ、今日は学校の課題を終わらせていたので行けませんでした、と返信するとやはり先輩たちも学生という身分だからか、それなら仕方ないな、と皆して共感して来て少しだけ笑ってしまった。
後どれくらい課題残ってるんだ？　と聞かれたので、読書感想文と自由研究です、と答えたら、二大巨頭じゃねぇか、と指摘され夏休み中に終わるのかと心配されたが、ど

ちらも夏休みに入る前に感想文用の本を読んだり、ある程度研究の構想を練ってたりしていたので問題はない。

というか、この際だし明日明後日で課題を全て終わらせてしまおうと考え、先輩たちに二、三日ボーダーに顔を出せない旨を先ほど伝えておいた。

本当はコツコツやって夏休みが明ける一週間前くらいに全ての課題を終わらせようと思っていたが、後顧の憂いなくランク戦でポイントを上げるためにも、終わらせられる時に終わらせておく方が良いだろう。

明日から少し忙しくなると思うが、そこさえ乗り切れば自由な夏休みを謳歌出来るので頑張ろう。

日記　⑦

ボーダー日記．３６

予定より少し遅れてしまったがようやく夏休みの課題が片付いた。
遅れた原因は間違いなく先輩たちと部隊ランク戦の考察に熱中したことだと思うが……あれはあれで楽しかったので良しとしよう。
影浦先輩のチームがＡ級に上がれなかったことは残念だが、影浦先輩自身はそんな気にした様子ではなかったので少し安心した。
北添先輩の話ではチーム間の連携が上手く取れなかったのが敗因とのことで、部隊規模のランク戦ともなるとやっぱり個人の実力よりもチームでの連携が重要になってくるんだなと学ばせて貰った。
自分は既に正隊員なので部隊を作ったり入ったりすることは一応可能だが、来年から受験が控えてるのでそれが終わるまでは正直厳しいと思う。
村上先輩たちのいるボーダー提携校に通えるなら受験は特に気にしなくても問題な

いのだが、母と約束した手前それは出来ない。
荒船先輩の通ってる高校ならボーダー提携校だが大学の推薦を無理なく貰えるので通ってもいいと母に言われてるが、普通の高校と同じように入試はあるのでどちらにせよ受験勉強は免れない。
個人的にはボーダー提携校で学力も申し分なく、加えて荒船先輩という知り合いのいる六頴館を第一志望にしているが……当然落ちる可能性もあるので第二、第三の志望校を考えたら勉強の手を抜くことも出来ないのが現状。
一応荒船先輩に勉強を教えてもらうことになったし、今の自分の学力なら問題はないとのお墨付きも貰ったので大丈夫だとは思うが……、それはあくまで今の状態を維持できていればという話だ。
明日からは存分にボーダーでの時間を楽しむ気持ちでいるが、羽目を外しすぎて学業を疎かにすることだけはしないようにしよう。

ボーダー日記．３７

自分がボーダーを休んでいる間に、村上先輩が弧月とレイガストの二刀流を編み出していた。

最初はどちらも重さのあるトリガーだから動きが鈍って村上先輩の長所がなくならないかと心配だったが、実際に模擬戦で戦ってみてその考えは杞憂に終わった。

むしろ村上先輩に足りてなかった要素がレイガストを使うことで完全に補われたと言うべきか……、戦ってみた印象としては、とにかく堅い、この一言に尽きる。

弧月だけでもかなり安定して戦えていた村上先輩だが、そこにレイガストを取り入れたことで近接戦闘に於いては無類の強さを発揮していて、レイガストで相手の攻撃をいなしその隙をついて弧月の一閃で斬り払う、という戦法は分かっていても対処の仕様がなかった。

機動力こそ以前の戦い方と比べたら劣っているが、村上先輩は地形を上手く使って戦うことでその欠点を補ってるので誤差レベルと言っていいだろう。

あれでまだ二刀流に慣れていないというのだから、今後の成長を考えるとどれだけ強くなるのか期待半分不安半分と言うのが正直なところだ。

今のところは射手の適正距離でレイガストとシールドをある程度削り、その上からスラスターで決めることでどうにか戦えているが……果たして学習能力の高い村上先輩相手にどれだけその戦い方が通用するか。

少なくとも今のままでは、そう遠くない内に対策されて終わりだろう。

それは村上先輩に限った話ではなく、荒船先輩や影浦先輩など上の人たち全員に当て

嵌まることだ。
……少し早いと思うが、トリガーを増やしてみてもいいかもしれない。
明日か明後日辺り、予定があえば寺島さんのところにいって相談してみよう。

ボーダー日記．３８

寺島さんはしばらく手が離せないということで、相談はまたの機会に持ち越しということになった。
出来れば時間の取れる夏休み中に相談したいものだと思ったが、あまりに親身になってくれるからつい忘れがちになってしまうが、寺島さんはエンジニアの中でも５人しかいないチーフエンジニアの１人だ。
今更ながらそんな人と接点を持ててなおかつトリガーの構成や戦い方の相談が出来る自分はそれだけで他の隊員より恵まれているのだから、自分の都合を寺島さんに押し付けて寺島さんの貴重な時間を奪うのは止めようと反省した。
別に寺島さんに頼まなくてもトリガーの付け替えは出来るのだから、自分で考えたトリガー構成を訓練場か模擬戦かで試せばいいじゃないか、そう結論を出していざ再び開発室へ……、と言うところで、荒船先輩とバッタリ遭遇した。

荒船先輩は自分を見つけると、ちょうどいいと言わんばかりに悪い笑顔を見せ自分を訓練室まで連行し、自分の言い分も聞かないまま模擬戦を始めてしまった。

そして――…１０本やった模擬戦の結果は６―４で荒船先輩の勝ち。

前回の結果を踏まえればかなり善戦した方だと思うが、それは荒船先輩のトリガー構成が普段使いのものではなかったからだ。

いつもなら弧月とシールドをメインで使う荒船先輩が、その時は何故か銃手と射手のトリガーを入れていて、しかも扱いがすごいたどたどしく正直自分がランク戦で戦う銃手や射手以下の錬度だったと言わざるを得ない。

どうしていきなり中距離用のトリガーを使うのか疑問に思って聞いてみたが、今度時間のある時に教えてやる、と返答され、付き合ってくれたお礼にと缶ジュースを手渡して荒船先輩はどこかへ行ってしまったから詳細は分からないままだ。

……とりあえず荒船先輩がいつか話してくれるのを楽しみに待っていようと思った。

ボーダー日記．３９

折角の夏休みということで、先輩たちに誘われプールに行ってきた。

プールは伯父と体作りもかねて頻繁に行っていたので、泳ぎにはそれなりに自信があ

りますよ、と言ったら影浦先輩から勝負を挑まれた。
ボーダー隊員としてはまだまだ影浦先輩には敵わない自分だが、泳ぎに関しては絶対負けないという自負があり――…、結果かなりの大差をつけて影浦先輩に圧勝した。
だがそこは負けず嫌いの影浦先輩、その後何度ももう一回をしてくるので影浦先輩が望むならと勝負を受け続けてたらいつの間にか昼を過ぎていた。
一緒にいた村上先輩は自分たちが熱中している間に荒船先輩が泳げないという話を聞き、どうにか荒船先輩が泳げるようにと屋内プールで練習に励んでいた様子だったが……残念ながらその成果は出なかったらしい。
荒船先輩が泳げないことは素直に驚いたが、プールに行こうという話になった時に頑なに嫌だと言っていた荒船先輩の様子は、泳げないということを考えれば確かに納得だった。
その後は軽く昼食を取って、夕方まで荒船先輩でも楽しめるアトラクションなどでプールを満喫した。
ただ昼食の席で村上先輩から、自分が泳ぎが得意なのはもしかしたら自分のサイドエフェクトが関係してるんじゃないかという話を聞いて、改めて自分のサイドエフェクトのことを考えたら確かに関係してるかもしれないと思った。
伯父から泳ぎを教えてもらったときもすんなり覚えられたし、長年泳いでいたが

フォームで苦労することもなかった。

学校のプールの時間などで皆が速い速い言ってくれてたのは知っていたが、普通にお世辞だと思って聞き流していたし……というか、自分のために気を使って言ってくれてるんだなと場違いなことを考えてたくらいだ。

話を聞いた影浦先輩は、プロ目指せんじゃねぇか？　と言ってくれたが、泳ぐことは好きだが別段プロを目指すほどの熱意はないし、加えて今はボーダーでの生活が楽しいから泳ぎでどうこうっていうのは特に考えていない。

荒船先輩は終始泳げる自分が羨ましいと言っていたが、どうにかしてあげようにもまず顔を水につけることを躊躇ってしまう時点で教えるどうこうの問題じゃないのが悩ましい。

それさえ改善できれば色々教えられると思うのだが……村上先輩の話を聞く限り改善できない可能性の方が高いので、そこばっかりは荒船先輩自身に克服してもらう他ないだろう。

頑張れ、荒船先輩。

最近ボーダー内で仮入隊の隊員をよく目にするようになって、自分がボーダーに入隊してもう四ヶ月が経とうとしてる事実に、時間が経つのは速いなとしみじみとした気持ちになった。

何かに夢中になってる間は時間の流れが速く感じる、という話は聞いたことがあるし今まで何度も体験して来ているが……、正式入隊日で訓練用の近界民と戦ったことが昨日のように思えるくらい、時間の流れが速く感じてしまう。

今までは自分も先輩たちに教えられる側だったが、次の正式入隊日からは自分が教える側に回ることになるかもしれないと思うと……正直、少し不安だったりする。

まぁ自分みたいな人間にそうそう声をかけてくる物好きがいるとは思えないし、よっぽど困ってなければ自分から声をかけようとも思わないので大丈夫だろう。

個人的に次の正式入隊日でレイガストを使う人がどれだけいるのか少し気になってたりはするが……、寺島さんたちの話を聞くにいない可能性の方が高いと思うのであんまり期待はしてない。

もしいたなら仲良くなれたらいいなとは思うが……それは追々ということで、楽しみにしていよう。

もう数日もしない内に夏休みが明けるが、学校から出された課題は全部終わらせてあるし、先輩たちとプールに行った思い出も作れたので大満足だ。

日記　⑧

ボーダー日記．４１

夏休みが明け、学校が始まって少し経ってから行われた正式入隊日。
自分は防衛任務に就いてたので詳細は知らないが、何でも訓練用の近界民を僅か４秒で撃破したとんでもない訓練生がいるらしい。
木虎さんの出した９秒という記録より更に速い４秒……当時の自分の３分越えの記録と比べれば、それがどれだけ凄いことかなんて詳しく説明しなくても分かるだろう。
加えて嵐山隊の先輩たちと一緒に訓練生の指導に参加して実際にその現場を見ていた荒船先輩曰く、スコーピオンの扱いは既にＢ級の正隊員と比べても遜色ないとのことで、話を聞いただけでもその訓練生が高い素質を持っていることが分かる。
迅さんが連れてきた、と荒船先輩は言っていたが、自分はその迅さんという人を知らないので今度覚えていたらそれとなく聞いてみようと思う。
そう言えば訓練用の近界民と戦うことって正隊員になった今でも出来るのだろうか

……？　もし出来るなら今の自分がどれくらいのタイムで倒せるのか少し興味がある。
トリガーの扱いに慣れて防衛任務で実際に近界民とも戦ってる今なら流石に以前のような記録にはならないと思うが……、それでも４秒を超えられるかは曖昧なところだ。
今度寺島さんに会ったら訓練室でどれだけのことが出来るのか聞いてみよう。

ボーダー日記．４２

前々から考えていたトリガーの増設をエンジニアの人たちに頼み、訓練室を借りて放課後のちょっとした時間で試行してきた。
増やしたトリガーは三つでメインにハウンド、サブにグラスホッパーとバッグワームを入れた。
だから今のトリガーセットは、
メイン：レイガスト　スラスター　　ハウンド　ＦＲＥＥ
サブ　：シールド　　グラスホッパー　ハウンド　バッグワーム
こんな感じになってる。
バッグワームは入れるか悩んだが、エンジニアの人から正隊員は殆どつけてるという

話とその有用性を聞かされたので、枠には余裕があったからとりあえずつけてみた。
ハウンドをメインにもセットしたのはレイガストが射程外だと結構腐る場面が多かったので、メインでも中距離の相手と戦えるようにという理由。
グラスホッパーはレイガストの欠点の機動力を補うためと、色々試してみたいことがあったのでそのため。
スラスターでもグラスホッパーの代用は出来ないこともないが……トリオンの消費量や戦い辛さを考えるとグラスホッパーを使った方が遥かに良い。
今日はあんまり時間が取れなかったので訓練室で試しただけだが、グラスホッパーの癖が想像以上に強かったのでそこさえ慣れれば今後のランク戦でも問題なく使っていけると思った。
だから明日から訓練室に籠ってみっちり練習……といきたいが、来月まで大きな学校行事が固まってるので、それが終わるまでは諸々の手伝いなどがあるのでそうも言ってられない。
まぁそれでも隙間の時間は結構あるので、そこを上手く使って練習していこうと思う。

ボーダー日記：４３

訓練室での練習もそこそこに、実戦での勘を鈍らせないためにと足を運んだランク戦のロビー。

今日は村上先輩たちは各々の事情で来れないとのことだったので、適当にポイントの近い相手を募集してランク戦をやろうかと考えていた矢先……、一人の先輩に声を掛けられた。

明るい髪と黒いロングコートが特徴的だったその先輩の名前は出水　公平さん。

驚くべきことに、Ａ級部隊の一つ『太刀川隊』に所属するＡ級隊員だと言う出水先輩は、自分の噂を聞いて自分に頼みごとをしたくて声を掛けたと言う。

荒船先輩も言っていたが自分は一体ボーダーでどんな噂をされているんだろう……、それが今にして思えば気がかりだが、その時の自分はＡ級の出水先輩が自分みたいな一般隊員に何の用かと恐々としていたので詳しくは聞けなかった。

そんなこんなで、一人でランク戦をやること以外に予定もなかったので誘われるがまま出水先輩について行き――…辿り着いたのはまさかの出水先輩が所属する太刀川隊の作戦室。

訳が分からないまま出水先輩に入って入ってと背中を押され上がらせて貰うと、そこにいたのは出水先輩と同じロングコートを羽織り、四白眼を自分に向ける先輩の姿。

この人が太刀川隊の隊長？　と思い取りあえず挨拶しようと頭を下げようとしたところで、違う違うと首を振る出水先輩から事の経緯を語られた。

自分が隊長だと勘違いしていたその先輩は唯我　尊さんと言うようで、出水先輩曰く、ウチのお荷物くん、とのこと。

どういうことか聞いてみると、一時期話題になっていたボーダーに入隊して間もなくA級に上がった隊員がいるという噂の主がこの唯我先輩らしく、その色々と訳アリな話を聞いた後に、今のB級未満の実力の唯我先輩では部隊ランク戦で使い物にならないから同期の自分に唯我先輩と模擬戦をして鍛えてやってほしい、というのが出水先輩が自分に声を掛けた理由だった。

鍛えると言ってもただ模擬戦してくれるだけでいいからと出水先輩に言われ、ちょうど新しいトリガーセットの練習もしたかったので、そういうことならとその話を受けようとしたのだが……どうやら唯我先輩はその話を聞かされていなかったらしく、断固お断りする！　と言って作戦室から出て行ってしまった。

出水先輩はそんな唯我先輩を説得しに行くとのことで、この話はまた後日ということで連絡先だけ交換して解散となった。

出水先輩から唯我先輩の説得？　を終えたと連絡が来たので、先日連れられた太刀川隊の作戦室に顔を出すと……出水先輩と唯我先輩、そして太刀川隊のオペレーターだという国近　柚宇先輩がいたので、改めて挨拶と一緒に自己紹介をした。

隊長の太刀川さんは大学に行ってるからと挨拶できなかったが、出水先輩がランク戦ばっかりしてる人だからロビー行けば高確率で会えると言っていたので、恐らく相当のバトルジャンキーなのだろう。

閑話休題。

出水先輩からは唯我先輩のことをボコボコにするつもりで全力でやっていいと言われていたが、訳アリな唯我先輩でもＡ級の部隊に所属する以上はＢ級未満だと言う出水先輩の評価は流石に大袈裟なものだろうと思い、むしろ胸を借りるつもりで臨んだ唯我先輩との５０本勝負。

……結果から先に言おう。

４９勝１敗、それが自分と唯我先輩の模擬戦の結果だった。

４９勝は当然唯我先輩……ではなく、自分。

まさか出水先輩の言っていた訓練生レベルというのが本当のことだとは思いもしなかったので、模擬戦が終わった後の燃え尽きたように作戦室のソファに伏した唯我先輩

にはどう言葉を掛ければいいのか分からなかった。

ちなみにこの1敗は唯我先輩の使った”カメレオン”というトリガーの能力が分からず、いきなり消えてしまった唯我先輩を見て故障か何かかと勘違いした自分が国近先輩に確認を取っていた無防備な時に唯我先輩の拳銃で頭を撃ち抜かれた時のもの。

出水先輩は、事故みたいなもんだ、と言っていたが、初見殺しという点では確かに成功していたし、そもそもボーダーの隊員でありながらトリガーの能力を把握しきれていなかった自分に非があるから、あれは自分の負けと認めざるを得ない。

その時は自分の知らないトリガーを使いこなす唯我先輩をやっぱり凄い先輩だと思っていたのだが……、まさかその後にあんな作業のような一方的な戦いになるとは考えもしなかった。

模擬戦が終わった後に出水先輩から、弱かったろ？　と言われてかなり反応に困ったので、カメレオンを使った初見殺しは良かったとせめてものフォローをしておいた。

当然それはボーダーに入隊して間もない自分のような相手だから成功しただけでA級部隊相手にその戦い方が通用するとは思えないが、そうだろう！　そうだろう!!　と鼻高々に語る唯我先輩にはとてもじゃないが言えなかった。

まぁ自分が言えないだけで、出水先輩があっさりバラして唯我先輩をへこませてたが、あれは出水先輩なりの愛の鞭のようなものだろう。

正直、落ち込む唯我先輩を見て楽しんでいるだけのようにしか見えなかったが……そこはあまり考えないようにしよう。

ボーダー日記．４５

今日も今日とて唯我先輩と５０本勝負。

結果は言わずもがなだが、自分が５０戦全勝。

唯我先輩はメインとサブに拳銃型のアステロイドをセットしていて、カメレオンを起動していない時は基本的に二丁拳銃のスタイルで戦っているが、正直どちらか片方はハウンドにした方がいいんじゃないかと思うくらい拳銃の命中率が低い。

単に練習していないだけというのもあるが、それでもグラスホッパーもスラスターも使ってない状態の自分（レイガスト使い）に当たらないというのは致命的だと思う。

それに命中しない度に焦って動きが悪くなるという悪循環を繰り返してるので、それだったらいっそ自動追尾してくれてある程度制御も利くハウンドを入れた方がいいのではないか、そのことを出水先輩に提案してみた。

出水先輩は射手の名手として有名だと国近先輩が言っていたので、教えるには自分なんかよりよっぽど最適だろうと思っての提案だったのだが……どういう訳か、唯我先輩

だけでなく自分まで出水先輩にハウンドを教わることになった。
いや、ハウンドというよりは射手としての立ち回りを教わることになった、というのが正しいだろう。
出水先輩が言うには、戦闘スタイルがおれと似てるから、とのことだが……如何せん出水先輩が戦ってるところは見たことがないので、自分には曖昧に頷くことしか出来なかった。
まぁA級の、それも本職の射手の人に教えてもらえる機会なんて滅多にないことだと思ったので、教え自体はありがたい気持ちを持って学ばせて貰った。
ただ実技を交えて丁寧に教えてくれるのは本当にありがたいことなのだが、本来教えるべき筈の唯我先輩をほったからしにしてしまっては本末転倒だと思う。
ていうか途中から唯我先輩、国近先輩に誘われて（無理やり）作戦室でゲームしてたし……作戦室に戻ってきた時に国近先輩にボコボコにされて机に突っ伏していた唯我先輩を見た時は本当に申し訳ない気持ちになった。

日記　⑨

ボーダー日記．４６

ボーダーの食堂で一人昼食を取っていたら見知らぬ隊員を連れた村上先輩と会った。村上先輩と一緒にいた人たちは以前村上先輩が言っていた鈴鳴支部所属の隊員とのことで、優しそうな人が来馬　辰也先輩、帽子を被った元気な先輩が別役　太一先輩とそれぞれ自己紹介して貰った。

他にもオペレーターの今先輩と言う人がいるらしいが今は席を外しているらしく、村上先輩はこの三人の先輩たちと隊を組んでいて名称は支部の名前を取って鈴鳴第一と言うらしい。

しかし隊を組んでると言ってもまだ別役先輩がＣ級隊員だからランク戦などには参加出来ないし、正式な部隊としてボーダーに登録してるわけでもないと補足された。

別役先輩が、早くＢ級に上がりたいっすよ、と言っていたのでメインのトリガーは何を使うのか聞いてみたところ、別役先輩は狙撃手用トリガーをメインで使っているらし

く狙撃手は個人ランク戦に参加出来ないことから中々ポイントが上がらなくて苦労しているとのこと。

自分は狙撃手用トリガーを扱ったことはないので詳しいことは分からないが、別役先輩の話を聞く限りだと狙撃手で上を目指すのは相当苦労するんだろうなと思った。

そんな話をしてると、別役先輩のことを微笑ましそうに見ていた来馬先輩から自分はどこかの部隊に所属してるのかと聞かれた。

何故か聞かれた自分よりも対面に座っていた村上先輩が驚いていた様子だったが、別段答え辛い質問という訳ではなかったので、部隊には所属してません、と答えると続いて勧誘とかは受けてるのかとも聞かれたのでその質問にも否定を返しておいた。

そんな自分の言葉に安堵したような来馬先輩だったが、自分は来馬先輩の質問の意図が分からなかったのでどういうことか聞き返そうとしたのだが――…、その時に自分たちの水を紙コップに入れて持ってきた別役先輩が、帰ってくるや否や自分の目の前で足をもつれさせ転倒、そして持ってきた水が全て自分にかかるという事態になってしまい……それが原因で聞く機会を逃してしまったので、また今度会ったら聞いてみようと思う。

ボーダー日記．４７

出水先輩に師事を受けてからランク戦の勝率が随分上がった。

今までは同じポイント帯の相手と１０本やったらどれだけ少なくても2本は取られていたが、今日のランク戦はストレート勝ちした試合が大半だった。

そしてついにレイガストのポイントが６０００点に乗ったので、自分なんかのために貴重な時間を使って教えてくれた出水先輩や実戦の相手を務めてくれた唯我先輩には感謝してもしきれない。

出水先輩はコロッケが好きだと言っていたので今度お礼も兼ねて差し入れとして持っていこう、まだ会ったことはないが隊長の太刀川さんも好きだと言っていたのでちょうどいい。

問題は唯我先輩と国近先輩の好物は分からないことだが、唯我先輩はいいとしても国近先輩は女性なのでやっぱり甘いものとかの方がいいのか……？

その辺りがイマイチ把握出来てないので不安だが、何となくあの人たちなら気にしないという予感がするので大丈夫だろう。

そう言えば出水先輩から聞いたのだが、自分とかなりの数の模擬戦をして実戦慣れしたからか、唯我先輩が出水先輩に連行されることなく自主的にランク戦に行くようになったらしい。

出水先輩曰くB級に上がりたての元訓練生ばかり狙って相手してるとのことだが、それでも今までの絶対に個人ランク戦には参加しないという姿勢を考えればかなりの成長だと思う。

だからこれからも唯我先輩には頑張ってほしい。

ボーダー日記．４８

村上先輩と模擬戦を終え、久しぶりに真剣勝負のランク戦でもしようかという話になって個人ランク戦のブースに向かったら、荒船先輩と自分より年下だろう隊員が白熱した試合をしていたので村上先輩と二人で思わず見入ってしまった。

結果は荒船先輩がその隊員を８―２で降したが、個人的にはどちらが勝ってもおかしくない良い勝負だったと思う。

その後、荒船を待つかという村上先輩の提案を受け待つこと数分……ブースから戻ってきた荒船先輩の隣には荒船先輩の相手をしていた隊員の姿があり、見てたのかよ、と嘆息する荒船先輩を介してお互いに自己紹介をした。

荒船先輩と戦っていた子は緑川　駿くんというようで、この前の正式入隊日に訓練用近界民を４秒で倒した大型ルーキーと噂されてた当人とのこと。

正式入隊日から一月ほどしか経ってないのに既にB級に上がり、その上荒船先輩とあれだけ渡り合っていたことから考えるに相当の才能だなと思わず感心してしまった。

村上先輩も凄いなと唸っていたが、自分からしてみればどっちもどっちだと思う。

そんなことを考えていたら、緑川くんから自分と村上先輩ともランク戦がしたい、という提案をされたので断る理由もないとその提案を承諾、その場の流れから自分が先に緑川くんとランク戦をやることになった。

緑川くんの戦い方は端的に言うなら二刀のスコーピオンでガンガン攻めてくる機動力が強みの攻撃手で、B級に上がって入れたであろうグラスホッパーも絡めて撹乱もしてくる相手だった。

ただスコーピオンの使い方は上手かったが他のトリガーはまだ使って間もないせいか色々な場面でミスが目立っていて、加えて例に漏れず自分がレイガスト使いだと分かるや驚いたような余裕そうな表情を見せたので、その油断と隙をついて初動から両攻撃のハウンドを仕掛けその流れでポイントを先取出来た。

レイガスト使いじゃないの!?　と驚いていた緑川くんには悪いと思ったが、ランク戦という真剣勝負の場で手加減をするつもりは毛頭なかったので、混乱してるところを一気に攻めさせて貰った。

そのランク戦が終わった後に荒船先輩から、容赦ないなお前、と苦笑されたが結果は

荒船先輩と同じ８―２で無事勝利。

しかし自分的には次の村上先輩の方が容赦ないなと思った。

自分との戦いでレイガスト使いだからと侮ることなく村上先輩との試合に臨んだ緑川くんだったが……その上で、村上先輩は緑川くん相手に１０―０の完勝。

荒船先輩も自分も村上先輩が負けるとはまったく考えていなかったが、それでもあれだけ一方的な試合になると緑川くんが少し可哀想だなと思ってしまうのも仕方ないことだろう。

ただＢ級に上がって間もないという点を考えれば、緑川くんは既に並みのＢ級隊員より強いと思うし、自分も次に緑川くんと戦う時は今日のランク戦のようには行かないだろうなという確信もある。

今日はもう大分遅い時間だったのでその場でお開きになってしまったが、次に緑川くんとランク戦する時が楽しみだ。

ボーダー日記．４９

防衛任務にも慣れただろうということで、これからは一人で防衛任務に就くことになった。

といっても他の部隊と合同でやる時もあるらしく、防衛任務中は常に無線で本部と連絡が取れるので心配する必要はないとのこと。

オペレーターも本部の人がやってくれるみたいで、今日の防衛任務は沢村さんという人にサポートして貰った。

最初はたった一人の防衛任務ということで少し緊張したが、今まで通り特に問題なく防衛任務を終えることが出来た。

防衛任務はボーダー隊員の本職だし、今後も気を抜かずにしっかり務めていこう。

ただ警戒区域は無人地帯で風景も代わり映えしないから、一人だと話し相手がいなくて退屈に感じた。

一応いつでも本部とは連絡できるが、自分の暇つぶしのために本部に連絡する訳にもいかないので、そういう意味では部隊を作るなり入るなりした方がいいのかなと思う。

いずれはＡ級を目指すつもりだし、そうなったら部隊ランク戦に参加して勝ちあがることが必要不可欠なので、部隊関連は遅かれ早かれ当たる壁の一つだ。

しかし自分には隊長は務まらないという確信があるので、出来るなら何処か募集してる部隊に入りたいものだが……今のところボーダーでそういう話は聞かないのが現状。

ただ部隊に入るなら足を引っ張らないためにもマスタークラスになってから入りたいという気持ちもあるし、来年から受験も控えてるので本格的に考えるのはそれらが終

わってからでもいいかなと思う。

ボーダー日記．５０

荒船先輩から完璧万能手の話をされた。

完璧万能手とは攻撃手・銃手または射手・狙撃手の三つのトリガーのポイントがマスタークラスに到達した隊員の名称らしく、荒船先輩はその完璧万能手になるのが目標のようで将来的にはボーダー隊員の誰でも完璧万能手になれる理論を確立するのが夢だと語っていた。

以前荒船先輩が銃手と射手のトリガーを使って自分と模擬戦をしたのは、荒船先輩にとって銃手と射手のトリガーのどちらが使いやすいかを確かめるためだったとのことだが、荒船先輩はどちらもしっくり来なかったらしく一先ず狙撃手の方から先にマスタークラスを目指すと言っていた。

狙撃手と言えばこの前別役先輩と話してかなりポイント上げるのが難しい印象を受けたが、何となく荒船先輩なら大丈夫だろうなという気がする。

荒船先輩は狙撃手には何人か知り合いがいるみたいでその人たちに教えてもらうと言っていたし、荒船先輩はもうすぐ弧月のポイントがマスタークラスに到達するので狙

撃手に転向するのもそう遠くないだろう。
それにしても完璧万能手か……レイガストもハウンドもマスタークラスには及ばない自分からしてみればまったく想像のつかない話だが、いつかはそういうのも目指してみたいと思う。
そのためにも、まずはレイガストをマスタークラスまで上げれるように頑張ろう。